

装置に命を吹き込むエンジニア

**モノづくりへのこだわりが
成長への糧となる**

コンピュータをはじめ、多くの電化製品や情報通信機器などで使用される半導体。その応用範囲は飛躍的に広がり、今では私たちの生活や産業に欠かせないものになっています。

日立ハイブリッドネットワーク株式会社に入社して今年で6年目を迎える加藤裕美さんは、装置の心臓部ともいえるIC（集積回路）の設計に取り組んでいます。

「肉眼では捉えることのできないミクロの世界ですが、たった一枚のチップを設計するのに要する時間とコストは半端なものではありません。単純な操作ミスで集積回路に不具合が発生しないよう可能な限り誤作動を予測して、何度もシミュレーションを繰り返します」
通常、解決策に行き詰まると問題

が発生した箇所ばかりに意識を集中させてしまうもの。そこを加藤さんは

頭を切り換え、まずシステム全体がどう機能するのかを見直すことから始めるそうです。与えられた作業だけを機械的にこなすのではなく、常に新しいことを積極的に取り入れて顧客にプラスアルファを提案していく。こうした「モノづくり」へのこだわりが、加藤さんを一歩ずつ確実に成長させてきたようです。

言葉で伝える力をも身につける

在学中から電子回路の設計が好きで、専門性を生かす仕事に就いた加藤さんですが、振り返ればプログラミングの勉強もしておけば良かったと言います。

「絶えず技術が更新される分野なので、短期間で最新のものを開発することが求められます。プログラミングができる」とコンピュータで期待値を導き

出すことができるので作業の効率が上がります」

新しい技術を誕生させるには、専門分野の知識を深く掘り下げるだけでなく他の分野のことも幅広く知っておく必要があるそうです。

中部大生へのメッセージは「大学時代に思い出になるような良い経験をとくさんして、学生生活の中から人間関係や気配りを学んでほしい」とのこと。そして「ぜひ身につけてほしいのは、コミュニケーション能力です。黙っている相手は何もわかりません。自分の気持ちは言葉できちんと伝える。人は一人で生きているわけではないのです。人から信頼されるようなコミュニケーションのできる人が、豊かな人間関係を育んでいくのです」



加藤 裕美さん

日立ハイブリッドネットワーク株式会社
システム本部 モジュールソリューション部（MS部）

平成8年度 電子工学科（現・電子情報工学科）卒業
平成10年度 大学院工学研究科
電気工学専攻（現・電気電子工学専攻）
博士前期課程修了